

# 第38回東播少年剣道大会

## 3・29 於:吉川総合公園文化体育館

### 三木勢、小男子・女子の部で志染、 中男子の部で吉川が3位入賞!

#### 最強印南3連覇達成(小学男子の部)



No.172  
三木市剣道連盟  
広報部  
3、4、5月号  
平成27(2015)年  
5月27日(水)発行

少年剣道教室主将今福謙大選手(小  
らが挨拶。選手宣誓は、自由が丘  
理北井副市長  
本三木市長代  
会長である藪  
氏、大会名誉  
長河野修一郎  
県剣道連盟会  
来賓に兵庫  
した。選手を鼓舞  
ぬすれば思わ  
う段の力を100%出すこと。そ  
と選手を鼓舞  
した。選手を鼓舞  
ぬすれば思わ  
う段の力を100%出すこと。そ



3月29日(日)、三木市吉川総合  
公園文化体育館で伝統ある第38回  
東播少年剣道大会が、東播8市2  
郡の剣道教室41団体、小学生、中  
学生計110チーム544名の選  
手が参加して、盛大に開催された。  
朝からあいにくの雨模様で、受付  
の定刻前にはすでに選手たちが開  
場を今か今かと傘をさして待つて  
いた。



9時30分、  
開会式が行わ  
れ、大会会長  
の神澤正輝氏  
が、「主役の  
君たちの活躍  
を期待する。そ

ているのが心配の種だ。  
は、従来のリーグ戦導入の理由  
は、一回の参加費を払っても半数のチ  
ムは1回しか戦えずに姿を消すの  
を惜しい、全チーム2回以上試合  
を行い、より試合経験を積み、交  
流を深められるようにしたいとい  
う理由だ。昨年来、東播少年剣道  
連盟理事会で議論し、本年度の開  
催市である三木市から実際に予選  
リーグを始めることになったのだ。



6)が、「勝敗にこだわることなく、  
正々堂々と戦い、仲間との交流を  
深めることを誓います」と力強く  
行った。  
争う。それは、少子化のためチ  
ム数が減少傾向で時間的な余裕が  
生まれたことが第1の理由である。  
平成15年第26  
回大会では小  
・中合わせて  
最多162チ  
ムだったが、  
今大会は11  
0チーム。と  
りわけ中学生  
男子の部が前  
年に比べ8チ  
ームも減少し

期して、開催地の三木市は今年1  
年間少年部が熱心に強化練習に取  
り組んできた。その成果を生かし  
たいものだ。  
しかし、現実には厳しい。9チ  
ムを送り込んだ三木市だが、予選  
リーグを突破できたのは、第3試  
合場の志染スポーツ少年団Aと第



**小学生男子の部  
三木勢、志染が3位に  
印南剣道場が3連覇**  
1から4試合場の4会場が始ま  
った小学男子団体戦1回戦は、3  
または4チームの総当たりで予選  
リーグ戦。43チーム中13チームが  
2回戦に残る。2回戦を突破する  
と、ベスト  
8。と、  
平成12年前の  
三木勢、志染が3位に  
印南剣道場が3連覇

- 東播少年剣道大会結果(1・2面)
- 三木市剣連剣道勉強会・緑が丘SSDが40周年記念誌発行(3面)
- 別所公春祭り共催剣道大会試合結果(4・5面)
- トピックス～三木市剣道連盟総会・伊藤明裕氏が師範に・昇段者(5面)
- 高橋洋三の剣道よもやま話(6面)

◎本紙は三木市  
剣連HP (<http://mikikenren2011.web.fc2.com/>)  
でもご覧になれます。PDFでカラー印刷できます。

2試合場の吉川剣道少年団の2チーム。志染Aは、予選で二見北と勝数同数で並ぶも、勝者数で勝り予選を突破。組み合わせの妙で2回戦を戦わずベスト8に入った。また、吉川は、2回戦で緑が丘Aに勝利し3回戦に。しかし惜しくも阿弥陀剣友会に敗退した。



第3試合場の順々決勝、志染Aの相手は明石市の高丘剣道教室だが、副将戦を終え1対1と大接戦。志染の勝利の立役者は大将の大前選手。メン2本を鮮やかに決め準決勝に進出した。対する相手は第1試合場を勝ち抜いた3連覇を狙う常勝軍団印南剣道場。善戦及ばず3対0で破れたものの、志染にとって初の3位入賞を果たした。



決勝は、大久保剣道教室を下した播磨町と印南が戦い、印南が圧勝し、見事に3連覇を達成。通算12度目となる優勝旗を手中に収めた。

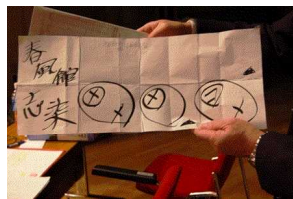
### 小学生女子の部 あっぱれ志染が3位に

第5、第6試合場で行われた小学生女子の部には、25チームが参加。三木市からはわずか2チーム、

三木中央と志染のみの参加だった。女子の剣道人口の減少も深刻な問題で、三木中央は先鋒を欠く中堅濱邊、大将日高の2人チーム。数的な不利はいかんともしがたく、予選リーグを勝ち抜くことができなかつた。

一方、元気いっぱいの剣道を披露したのは先鋒中西、中堅照井、大将寺口の4年生トリオで臨んだ志染チームだった。部員数が少なく6年生女子が男子の部に臨んでおり、オール4年生で臨んだ。

この日の相手はすべて上級生というハンデイもなんのその、予選リーグ対加西市剣道スポーツ少年団を3対0、高砂剣道教室剣誠会とは1対1できわどい接戦だった。がリーグ戦でトップでトーナメント進出。志染チームの下剋上の勢いはベスト8の対春風館戦でも止まらず、3対0で圧勝した。



相手が準決勝川警視少年合戦に敗退し、死闘に及ぶ。死闘に及ぶ。死闘に及ぶ。

た。しかし、来年に希望を抱かせるに十分の働きで大会開催地の面目を保った。きつい稽古は嘘をつかない。これからも精進あるのみだ。

### 中学生男子の部 吉川が3位に食い込む

中学生の部は、明石の大蔵剣友会が小学生男子の部の印南剣道場と同じく本大会3連覇を目指して臨んだ。大蔵は、過去7度の優勝を誇り、本大会で女子の部が設けられた平成14年第25回大会から現在までの13回のうち、男女アベック優勝を第27回、第31回、第33回、そして前回の第37回大会で計4回も達成している名門中の名門だ。

鍛え抜かれた体さばき、繰り出される技、ポイントを外さない試合運びなど、どれをとっても群を抜いている。

試合は小学生の部に続き、23チームが第1、第4試合場の4会場に分かれ予選リーグを行った。三木市からは緑が丘スポーツ少年団、木市からクラブ、吉川剣道少年団、三木中央少年剣道教室、志染スポーツ少年団剣道部の4チームが各リーグに分かれて参加、上位入賞を目指した。まず予選リーグだが、第3試合場だけが4校によるリーグ戦で、勝ち上がれば即ベスト4となる組み合わせとなっていた。運よく第4試合場で戦い勝ち上がった吉川がベスト4、3位以内入賞を確定し、準決勝で対戦したのが第1試合場を制した高砂剣道教

室剣誠会だった。吉川は、橋間、三藤、石原の3年生が活躍したが高砂は一枚上手で敗退。3位に甘んじた。

なお、優勝したのは、大蔵を破った高砂剣道教室剣誠会だった。準優勝が大蔵、3位には加西市剣道スポーツ少年団だった。

中学生女子の部にいたっては、三木勢は参加がなかった。

### 上位成績は次の通り

- 【小学生男子】  
優勝 印南剣道場(加古川)  
準優勝 播磨町少年剣道クラブ(加古郡)  
3位 志染スポーツ少年団A(三木)  
大久保剣道教室(明石)
- 【小学生女子】  
優勝 播磨町少年剣道クラブ(加古郡)  
準優勝 加古川警察少年剣友会(加古川)  
3位 志染スポーツ少年団A(三木)  
北野少年剣友会(加古川)
- 【中学生男子】  
優勝 高砂剣道教室剣誠会(高砂)  
準優勝 大蔵剣友会(明石)  
3位 吉川剣道少年団(三木)  
加西市スポーツ少年団(加西)
- 【中学生女子】  
優勝 竜東館(高砂)  
準優勝 高砂剣道教室剣誠会(高砂)  
3位 北条少年剣修会(加西)  
青波剣友会(高砂)

# 市剣連剣道勉強会開催される

4月12日(日)、9時15分から加佐コミュニティスポーツセンにおいて、恒例の指導者講習会が本年度「会員剣道勉強会」と称して開催された。会議室には、会員34名、高校生7名計41名が集まって当連盟顧問、前三木市剣道連盟副会長、森下哲次氏(剣道教士七段)の講話に耳を傾けた。狭い会場の通路まで席が並べられ、森下氏の「指導者の指導能力の向上について」の講話があった。



森下氏は、長年全日本剣道連盟の剣道社会体育の講習を積み重ね、日本体育協会公認スポーツ指導員でもある。そして、その成果を日々の指導に生かしながら、緑が丘

スポーツ少年団をはじめ中学校、高校の剣道部指導にあたられている。森下氏は、社会体育制度について、社会体育教本の重点事項について資料に基づき解説。昭和50



年に「剣道は県の理法の修練による人間形成の道である」という剣道の理念が全日本剣道連盟が定めたことや、平成19年に「剣道指導の心構え」

がまとめられたことなどを分りやすく話された。その後、会員同士の質疑応答の時間を設けられ、当連盟が行っている少年指導部の強化練習の成果、日頃の指導での悩み、心がけていることなどが参加者の意見として出され、参加者同士の交流が図られた。最後に森下氏は、参加者に対して、剣道を通じて人間形成の道を指導する指導者として忘れてはならないことは、指導者自らが率先垂範して範を示すこと、「指導者の一挙動で導く」事の大切さを強調され、講話を終えた。まさにこれは氏が身を持って実践していることと深く刻まれた。続いて小学校時代に志染スポー

ツ少年団剣道部、三木北高校剣道部で剣道を学び、現在(一般財団法人)日本コアカンデイング協会兼鍼灸師の吉田かつのり氏(マスタートレーナー)が登場。教会で普及している体づくりのトレーニングの実技をいくつか紹介。

日頃はあまり行わないが、スポーツをするうえでとても重要なことは、目からの情報を脳と筋肉に伝えることだと言われ、眼球を動かす筋肉のストレッチや数字カードを用いた脳と体の動きを連動させた素振り練習などを行い。楽しくしかも効果的でユニークなトレーニング法に参加者は興味を持って取り組んでいた。



生方を元立ちに会員が掛かっていた。鋭い気合が体育館いっぱい充満し、有意義な半日となった。

(報告 澤田 薫)

緑が丘スポーツ少年団 剣道クラブ 40周年記念誌を発行



平成26年10月に40周年を迎えた緑が丘スポーツ少年団剣道クラブ(代表小林哲也氏)は、「40年の歩み」と題する記念誌を「守破離」の文字が染め抜かれた手ぬぐいとともに配布された。

巻頭言で森下哲次氏は「あいさつ・ありがとう・あんぜん」に留意して指導し続けていることを喜んでいきます。これからもたくさん弟や妹が参加して「ずーっとクラブが続くことを願っています。」と述べられ、冊子はこの10年間の試合結果や活動の歴史、楽しい思い出の写真も満載されており、クラブの歴史に残る素晴らしい冊子となっている。(報告 澤田 薫)